



のむら・ともあき 1973年堺市東区生まれ、在住。2011年堺市議会議員に当選し連続3期勤める。2019年堺市長選挙では逆風のなか驚異的に追い上げるも惜敗。

堺市長選挙2023

住みたくなる堺市に 住民サービス拡充で好循環

堺市長予定候補 野村ともあき氏インタビュー

任期満了に伴う堺市長選挙が6月4日実施される(5月21日告示)。現市政をどう考えるか、堺市の未来をどう展望するか。野村ともあき堺市長予定候補に聞いた。(インタビュー：江原豊堺・高石・和泉地区責任者)

コロナ禍の緊縮財政

江原：さっそくですが現市政の課題と野村さんの目指す堺市についてお話をください。

野村：まず現市政の課題についてですが、私が問題

だと考えているのが、財政運営のあり方です。コロナ禍で市民の生活が苦しいなか、現市長は財政危機を理由に財政を絞りました。

野村：堺市はコロナ禍で独自施策をほとんど実施してきませんでしたね。

野村：大阪府内でも国からの交付金と組み合わせる独自の支援制度を設けた市町村はたくさんあります。

野村：全国的にも独自施策に取り組んだ自治体はたくさんあります。しかし堺市は国の交付金以外にほとんどお金を使っていません。独自予算どころか交付金すら大幅な使い残しをしています。いったい何をしていたのか。

住民サービスを削減し黒字化

野村：財政危機を訴える現市長は「堺市財政危機脱却プラン(案)」のもと様々な住民サービスを削減してきました。その結果として堺市が黒字化したと言っています。

野村：そもそも自治体財政は黒字化すればいいというものではありません。もちろん赤字では問題がありますが、企業のように利益を出すことが目的ではありません。現市長は財政危機を理由に様々な住民サービスを廃止、縮小してきました。2021年度からの実施が決まっていた第2子の保育料無償化を延期した。これは許せない。2023年度から実施されましたが、2年間あったら子どもは卒園してしまいますよ。また、国からの交付金で実施していた市立小学校と支援学校の学校給食無償化を打ち切りました。国は物価高騰対策支援を継続するとしているのですから、事業は継続して後から予算を確保してもよかったです。コロナと物価高騰による家庭への負担緩和が求められるなか、なぜ4月で止めたのか。財政危機をあおって住民サービスを削減する。これが身を切る改革の行きつく果てです。もちろん無駄を無くすことは大切ですが、自治体の役割を放棄して黒字化しても本末転倒です。

野村：財政危機宣言が発出されたのが令和3年2月、脱却プラン(案)の本格実施は令和4年度からです。しかし、令和3年度の決算では堺市は過去最大の黒字でした。はっきり言って財政危機は嘘です。

よ。選挙戦のなかで追及していきます。

必要な投資で魅力的な街へ

野村：野村さんの目指す堺市の姿、公約についてお聞かせください。

野村：具体的なマニフェストは整理中ですが、①経済をまわす積極財政で堺を元気にする「黄金の日々再興計画」②日本一の子育て教育を目指す「堺・子育て教育ルネッサンス」③すべての市民に安心を「健康やさかい、安心やさかい」④市民の身を切る改革より「笑顔をつくる『実のある改革』」⑤政令市の誇りと地域愛を育む「堺プライド365/24」

の政策五本柱を掲げて選挙戦を戦います。

野村：教育・子育て予算を充実します。まずは打ち切られた小学校給食費の完全無償化を継続します。これは物価高騰対策、生活支援にもつながります。また学校環境を充実し学力の向上を目指します。この4年間で堺市の教職員応募者数は年々下がっており、非正規率が高まっています。教育は人です。人材を確保していくためにも予算を増やす必要があります。その他にも無料の放課後学習支援の復活など全世帯を対象に教育機会を充実したい。政令市で全国一の教育・子育て予算を目指します。子育て世帯が住みたくなる堺市にしたい。

野村：高年齢者施策についてはどうでしょうか。

野村：おでかけ応援制度を拡充したいと考えております。バスに加えてタクシーも利用できるようにしたい。私はおでかけ応援制度をただの高齢者福祉策だと捉えてはいなくて、人が動くことによる経済活性化や健康維持など複合的な効果を期待しています。乳児の保護者などにも対象を広げ、市民の活発な活動を支援する制度にしていきます。

ものづくりの街を次の100年へ

野村：経済政策についてお聞かせください。

野村：地元企業を全力で支援します。堺市の地域経済を支えているのは99%を占める中小零細企業です。地元企業の支援が地域経済の活性化につながります。新しい分野に参入したり、新しく事業を起す企業を積極的に支援します。また、設備の次世代化を進めていきたい。ITを活用いただき、現代化、次世代化できるように助言や設備投資に対する固定資産税の軽減、補助金の設立などを進めます。

野村：堺はものづくりの街としてその歴史を紡いできました。古墳にはじまり、須恵器、金属加工、鉄

砲、そして自転車産業と堺市はものづくりで発展してきた街です。

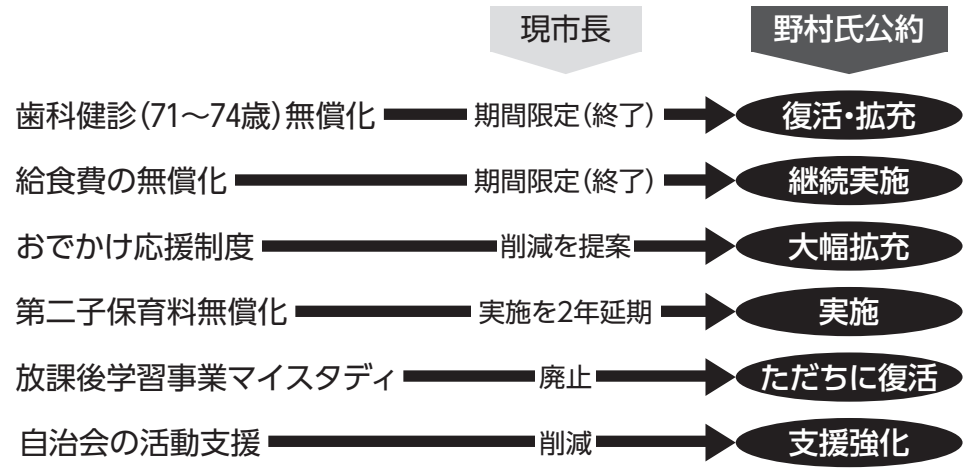
野村：ものづくりのアイデンティティが今も受け継がれています。しかし、外資企業との競争や時代の変化に苦しんでいる。だから時代への適応を支援していきたい。堺には自転車のシマノや金属加工の浅香工業など100年企業があります。次の100年に向けて、地元の企業が活躍できるよう全力をつくします。

野村：私は堺にはそのポテンシャルがあると思っています。そして、現代化を進めるためには必要なのは知識です。新しい技術が次々と生まれてくる時代は知識が重要であり、知識を扱える人材が必要です。私は知識を扱える人材を採用できる仕組みづくりを地元企業と一緒に取り組み、大阪公立大学との連携も進めていきたい。

野村：優秀な若い人材がどんどん堺に集まってくるイメージですね。

野村：そうです。そのためにはやはり住みたくなるような魅力的な街でないといけません。教育水準、

現市長による住民サービス削減と野村氏の公約 (抜粋)



環境、交通の利便性、行政サービスの充実が必要なのです。子育て世代が居住地を選ぶ際、行政サービスをとてシビアに見ています。教育水準や行政サービスは調べたらすぐにわかりますから。

争点は「お金の使い方」

野村：選挙の争点はなんですか。

野村：私は財政問題だと考えています。江原：私たちの税金を何に使つかということですね。現市長は、財政難だと住民サービスを削減しつつ、大阪市のカシノ・IRとの連携するためのベイエリア開発の見直しはせず断固として推し進めようとしています。

野村：政治はつまるところお金の使い方です。税金をどこに使うのか。例えばベイエリア開発などに大量にお金を注ぎ込めば、その分コロナ対策や住民サービスに使えるお金はおのずか減ってしまいます。私は市民の皆さんからお預かりしている税金は、市民の皆さんのために使いたい。住民サービスの拡充や地域振興など任んで良かったと思える街にするために使いたい。政策を示しどちらが市民のためになるのか問いたいと思います。

野村：この4年間で廃止、縮小された住民サービスの復活にも取り組むとか。

野村：すべて復活させたいと考えています。可能なものについては拡充も検討したい。

野村：71歳から74歳の歯科健診無償化はお約束させていただきます。現市政によって改悪された制度として復元したい。また、現在30歳以降で5歳刻みとなっている成人歯科健診の対象年齢も拡充し、多くの市民が受診できる制度にしたいと思っています。江原：ありがとうございます。ぜひ実現していただきたい。応援させていただきます。野村：ありがとうございます。がんばります。